

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

□ (評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 10 点

【模範解答例】

未来に向けて「何ごとか」を実現しようと思っているとき、 (A 2 点)

その「何ごとか」が明確ではない (B 4 点)

(明確ではない) からこそ行動に移してしまふような傾向があるということ。

(69 字) (C 4 点)

各加点要素の加点の条件

【A～Cに関して部分採点を行う】

A 未来に向けて「何ごとか」を実現しようと思っている (何ごとかを目指す・志向する)

B 「何ごとか」 (希望する対象) が明確ではない

C 明確ではないからこそ行動に移してしまう傾向がある

C (別解) 得られたもの、得られなかったものを見て、希望していたものを知る性質がある

問二 各3点

X Ⅱ Ⅱ Y Ⅱ Ⅱ

問三 5点

ハ

問四 各2点

待つ 遅れ

注意 「待つ」「遅れ」というように「」がついていても可

問五 15点

【模範解答例】

社会科学が未来の不確実性を重視し、

そこに人間的な意味があることを承認しようとする状況では、 (A 6点)

未来が不確実だからこそ希望が見失われず、

生きる意欲をもたらす点に注目すべきだという主張。 (89字) (B 9点)

◎各加要素の加点の条件

【A・Bに関して部分採点を行う】

A 「そこで」の内容の説明

①社会科学が未来の不確実性を重視し (3点)

②そこに人間的な意味があることを承認しようとする状況 (3点)

(別解) 未来の不確実性を縮減し、現在において予測可能にするよりも、不確実なものの不確実な

ままに扱おうとする状況

B 筆者の主張の説明

①未来が不確実だからこそ希望が見失われず、 (5点)

②生きる意欲をもたらす点に注目すべきだという主張 (4点)

問六 5点

もし未来が

問七 5点

ホ

二 (評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 各2点 (計8点)

1 貫徹

2 到底

3 鍛練 (鍛錬)

4 自明

問二 3点

ホ

問三 5点

物想い

問四 9点

【模範解答例】 批評精神を持たず、 (A 3点)

ただ騒ぎ立てるだけの状況が横行して、 (B 3点)

世の中が混乱していること。 (40字) (C 3点)

◎各加点要素の加点の条件

※A・B・Cに関して部分採点

A 「批評精神を持たず」 (3点)

※ホッブスの言葉の「智慧を含まぬ」の言い換え。

○「批評精神の喪失」「批評精神の衰弱」と本文の表現を用いているものも可。

B 「ただ騒ぎ立てるだけの状況が横行して」 (3点)

※ホッブスの言葉の「(智慧を含まぬ) 雄弁」の言い換え。

△「読む価値のない言論ばかりになって」は、傍線部の前に示された具体例を用いている説明であるので▲2点減点で△1点。

C 「世の中が混乱していること」 (3点)

※ホッブスの言葉の「混乱」の指摘。

○「巷間が混乱していること」も可。

【模範解答例】

相手の表面的な部分を理解するということと、  
相手の内面にある物の見方や考え方を理解するということ。

(A 5点)

相手の内面にある物の見方や考え方を理解するということ。

(4 8字)

(B 5点)

◎各加点要素の加点の条件

※A・Bに関して部分採点

A 「相手の表面的な部分を理解するということ」 (5点)

※「二つの知り方」の一方の説明。

△「相手の頭数などの計算でわかる情報を得ること」は、本文中の具体例をそのまま用いているので▲2点減で△3点。

△「相手を具体的に見て取ること」は、本文中の具体例と考えられる部分であるので▲2点減で△3点。

B 「相手の内面にある物の見方や考え方を理解するということ」 (5点)

※「二つの知り方」の他方の説明。

○「相手の見方や感性を理解すること」も可。

△「相手の哲学」は、本文中の表現をそのまま用いているので▲2点減で△3点。

【模範解答例】

同質の考え方をもち、分かり合おうとする日本社会では、  
（A 4点）  
相手を表面的な部分だけで理解しようとするが、  
（B 3点）  
利害が生じる関係の中では、内面にある感受性や考え方を理解できず、  
（C 3点）  
相手の真のあり方はわからないということ。  
（100字） （D 5点）

◎各加点要素の加点の条件

A 「同質の考え方をもち、分かり合おうとする日本社会では」 （4点）

※問いの条件である「日本社会の特徴」の説明。

○「価値観の近い日本社会では」も可。〈ただし「観」の誤字（「感」）に注意 「感」は▲1点減〉

○「自明性の領域を出来るだけ大きくする日本社会では」も可。

○「批判的精神を失い、他への追従的態度を示す日本社会では」も可。

B 「相手を表面的な部分だけで理解しようとするが」 （3点）

※Aであるため「表面的な理解で済みますこと」の主旨の説明（問五からの導き出し）。

C 「利害が生じる関係の中では、内面にある感受性や考え方を理解できず」 （3点）

※A・Bと異なる状況では、どのように他者を理解するのかについての説明（問五からの導き出し）。  
△「内面にある感受性や考え方を理解できず」とし、「利害関係が生じる関係では」の主旨のないものは▲2点減で△1点。

D 「相手の真のあり方はわからないということ」 （5点）

※傍線部「肝心な点をお留守にする」の言い換え。

○「批判精神は育たないということ」も当然可。

×「相手の内面の感受性や考え方が理解できないということ」は、Cを説明している部分であるため×0点。

三 (古文) 採点基準 (合計 50 点)

問一 各2点×4

- ① 存続の助動詞「たり」の終止形。                      ② 打消の助動詞「ず」の已然形。  
③ 完了の助動詞「ぬ」の連体形。                      ④ 可能の助動詞「べし」の連体形。

問二 4点

【模範解答例】女の、 (A 1点)

訪れる人が誰もいないことを (B 2点)  
むなしく思う心情。 (二十五字) (C 1点)

◎各加点要素の加点の条件

【各部の採点】

- A 「女：心情」：1点。はじめと終わりの形。「女の：気持ち」でも可。  
B 「訪れる人が誰もいないこと」：2点。比喻表現「蓬の宿」箇所の説明。  
C 「むなしく思う」：1点。「寂しく思う」「わびしく思う」「つらく思う」も可。

問三 各2点×3

- 1 ㍯                      2 ㍷イ                      3 ㍷ホ

問四 6点

【模範解答例】

誰もいないと思っていたのに、人がいて、 (A 2点)  
みすばらしい様子を見られたと思い、 (B 2点)  
恥ずかしくなった (C 1点)  
から。 (四七字) (D 1点)

【各部の採点】 4点満点。加点ポイント4箇所。

- a 「誰もいないと思っていたのに、人がいた」：2点。  
b 「みすばらしい姿を見られた」：2点。  
c 「恥ずかしくなった」：1点。「いたたまれなくなった」でも可。  
d 「から」：1点。原因理由の文末処理。この箇所だけでは零点。

問五 各4点×3

問五 C

【模範解答例】雨がひどく降ってきましたので、  
やむまでには、  
このまま縁におりましょう。(A 2点)  
(b 2点)

◎各加点要素の加点の条件

A 「雨がひどく降ってきましたので」…2点。「ひどく(はげしく)」+丁寧の補助動詞の意味+原因理由。「雨がひどく降ってきたので」のように丁寧語の欠けているものは1点。

B 「このまま縁におりましょう」…2点。「このままいましょう」は1点。

問五 D

【模範解答例】縁に居ては (A 1点)  
かえって (B 2点)  
雨に濡れてしまいます。(C 1点)

◎各加点要素の加点の条件

A 「縁に居ては」…1点。「縁にいる」の内容。指示語の補足。

B 「かえって」…2点。「むしろ」でも可。

C 「雨に濡れてしまいます」…1点。「(雨に)濡れます」の省略内容の補足。

問五 E

【模範解答例】たいそう風情のある (A 1点)  
女の字で、 (B 2点)  
このように歌が書かれてあった。(C 1点)

◎各加点要素の加点の条件

a 「たいそう風情のある」…1点。「たいそう美しい」も良し。

b 「女の字で」…2点。「女の筆跡で」も可。

c 「このように歌が書かれてあった」…1点。「このように書いてあった」ではダメ。「歌が」を補足する。

問六 3点

## 本歌取り

問七 9点

【模範解答例】貧しくてごちそうもできなかった女が、 (A 3点)

庭で摘んだ若菜を蒸し物にし、花びらに歌を書いた梅の枝を箸にして出す (B 2点)  
という心をこめた風情のあるもてなしをしてくれた (C 3点)  
こと。 (七五字) (D 1点)

◎各加点要素の加点の条件

A 「貧しくてごちそうもできなかった女が」：3点。「貧乏で十分なもてなしができないにも関わらず」の内容。

B 「庭で摘んだ若菜を蒸し物にし、花びらに歌を書いた梅の枝を箸にして出す」：2点。「摘んだ若菜を蒸し物にし、歌を書いた花びらに梅の枝を添えて出す」というもてなしの具体的な内容を書く。

C 「心をこめた風情のあるもてなしをしてくれた」：3点。「精一杯の心がこもった+風情のある」の内容。完答。

D 「こと」：1点。文末処理。これだけでは零点。

問八 各1点×2

## 伊勢物語・平中物語

【四】(漢文) 採点基準 (合計 50 点)

問一 各2点×4＝8点

a 〓 ゆえんなり      b 〓 より      c 〓 しかる      d 〓 まさに

◎採点のポイント

- ・歴史的仮名遣いは1点。例 a 〓 ゆゑんなり
- ・送り仮名不足0点。例 a 〓 ゆえん d 〓 まさ
- ・d 「まさに」を「はじめて」と読んだもの1点。

問二 5点

一人として酔はざるは無し

◎採点のポイント

- \*現代仮名遣いも可とする「酔わ」。
- \*漢字とすべき箇所を平仮名にしているもの、各1点減点。

問三 6点

【模範解答例】 悪事をして人に知られることを畏れるのは、 (A 2点)

悪ではあるが、 (B 1点)  
それでもやはり心中に善を持っている (C 3点)  
(といえる)。

◎採点のポイント

- \*書き下し文のままでは、0点。
- 書き下し文「悪を為して人の知るを畏るるは、悪中猶ほ善念有り。」
- A: 「悪」のまま減点1点。「悪事」「悪いこと」など。
- B: 「悪の中にも」は可。「悪中に」は0点。
- C: 「やはり」「それでも」に1点。ない場合は減点。

問四 5点

未<sup>三</sup> 必 真 得<sup>二</sup> 山 林 之 趣<sup>一</sup>。

◎採点のポイント

- ・送り仮名をつけたもの0点。
- ・用紙に余計な数字などを書いたもの0点。

問五 8点

【模範解答例】

下積みが長い者は、(A 2点)  
活躍し始めると大きな成果をあげ、(B 2点)  
早熟で早くから活躍している者は、(C 2点)  
落ち目になるのも早いということ。(D 2点)

◎採点のポイント

A 「雌伏」「大器晩成」も可。

問六 8点

【模範解答例】

当世の人は (A 2点)  
皆酔っているように (B 1点)  
名誉や利益に執着しているので、(C 2点)  
箴言によって (D 1点)  
人々を覚醒させたいと願うから。(E 2点)

◎採点のポイント

C 「名誉」は「名声」なども可。  
D 「箴言」は「警句」なども可。  
E 「覚醒」は「目覚めさせる」「良くする」なども可。

問七 5点×2

口・木